愛の星

2024・第2号（通算１７３号）2025年3月31日

社会福祉法人 東京聖ビンセンシオ・ア・パウロ会
愛星保育園
〒108－0074 港区高輪1-27-40
TEL. 03-3441-5410
FAX. 03-3441-5436
E-mail aiseihoikuen@fancy.ocn.ne.jp
http://www.aisei-hoikuen.com

園の花（すみれ）

愛星保育園では「子も親も職員もともに育ち合う」という大きな目標があります。今年度皆さんはどのような育ち合いがあったでしょうか。

先日、０歳児のＡくんが事務室に遊びに来ました。デスクの前で私の膝に座り、ぜんまい仕掛けの玩具で一緒に遊びました。ぜんまいを回し、動き始めると最初はちょっぴり驚いた表情を見せていましたが、何度か行ううちに目で追ったり、触ったり、声を出したり、笑ったりと楽しんでいました。そして、動きが止まると大きな声で動かしてほしいことを伝えました。その時、私宛に電話があり出ていると玩具の動きが止まりました。Ａくんは私の膝に座っています。きっと、「やって」と大きな声で伝えてくると思いましたが、Ａくんは玩具を握ったり、手に持って走らせ静かに１人で遊び始めたのです。そして、電話を切った時に、「やって」の大きな声が出ました。大人が電話をかけている時には静かに待つことをＡくんはわかっていたのです。きっとご家庭で保護者の方が伝えていたのだと思います。「子どもだからしょうがない」ではなく０歳児であっても丁寧に伝えていくことで、きちんと理解することができるということを強く感じました。

そしてもうひとつ、事務室前の廊下から「ひまわりさん（年長児）が赤ちゃんになっちゃった」という２歳児のＢちゃんの声が聞こえました。何の事だろうと考えて気付きました。卒園に向けて年長児一人一人の現在の写真と入園当初の写真が１階から２階の階段の壁に貼ってあり、Ｂちゃんはそれを見て先ほどの言葉を言ったのです。私達は２枚の写真を見て「大きくなったね」と思いますが、自分より大きな年長児しか見たことがないＢちゃんにとっては、とても不思議だったのだと思います。物の見方、考え方はひとつではないこと、別の視点をもつことでより柔軟な考え方ができることを教えられた瞬間でした。

幼児組はそれぞれのクラスでテーマをもって保育を進めてきました。テーマから繋がる取り組みを園だけでなく、ご家庭にもご協力いただき継続して行うことで子ども達の“わくわく”がより広がりました。また、保育参加でテーマに沿った本を持参し、子ども達に理解しやすいように読んで伝えてくださった保護者の方もいらっしゃいました。園の取組みに対して、ご理解いただいただけではなく、子ども達の興味関心や成長に必要なことをともに取り組んでいただいたことに心より感謝です。

子ども達は周りからの多くの刺激を受けて成長しています。愛星の特徴でもある年齢の枠を超えた混合保育の中で、異年齢児の姿から刺激を受け、様々な経験に挑戦したり、相手を思う気持ちを育てる姿が見られました。私達も、日々子ども達、保護者の方から気付かされること、学ぶことがたくさんあります。大人も互いに育ち合う環境を大切にしていきたいと思います。

今後も子ども達が自分で楽しいことを見つけ、「やりたいな！」という思いを持てるような環境を整え、工夫を凝らし、様々な経験を通し自信、意欲につながるよう自主性を大切にした保育に取り組みたいと思います。職員一同力を合わせ一人ひとりを大切に、より良い「愛星保育園」の保育を作っていくよう努めてまいります。

園長　村岡　恵美子

ゆり組（０歳児）

０歳児は初めての集団生活ということもあり、まずは保護者以外に安心できる大人が側にいてくれることが感じられるように子ども達の甘えを受け止め、笑顔で声を掛けながらスキンシップを取ってきました。朝８時前後に登園する子どもが多かったため、前期は午前寝を早目に行い、散歩の時間には少しでも外気に触れながら体を動かせるように関わってきました。夏の水遊びも全員で一斉にというよりは個々の生活リズムに合わせ、午前寝の前後に少人数でゆったりと水に触れる経験をし、水遊び後半には低月齢児も腹ばいやお座りで自ら水や寒天、氷に触れ様々な感触に親しみました。子ども達を見ていると、ゆったり自分のペースで保育者とのやりとりを楽しんでいたのでそのペースを崩さないように関わってきました。個々のペースに合わせながらも保育者は経験して欲しいことに誘い、「あと、ちょっと！」「今日はここまで出来たね！」「頑張ったね！」と言葉にしながら成長を喜び合うことで初めての経験が積み重なり、高月齢児は夏頃、低月齢児も秋頃には「自分でやってみたい！」という気持ちが芽生え始めていました。

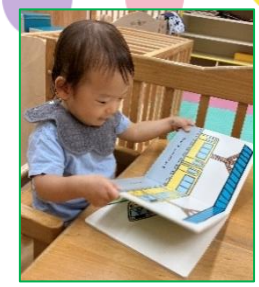
今年度は月齢差のある５名だったので遊び方が違いました。それぞれの遊びが保障できるように室内を２つに分けたり、高月齢児が周りに目が向くようになった秋頃、隣の２歳児室に行くとお兄ちゃん、お姉ちゃんが「これいる？」とままごとの食べ物をくれたり、「ハンバーグだよ。食べていいよー」と見立て遊びに誘ってくれたことで子ども達も嬉しそうにやりとり遊びをするようになりました。年上児との交流が「楽しい」と感じるようになると、次第に２歳児室に自ら歩み寄っていました。また、散歩でも１歳児クラスの子が滑り台を滑っていると真似て階段を上ろうとしたり、追いかけっこをしているとその姿を「楽しそうだな」と感じて一緒に走って追いかけられることを喜んでいました。低月齢児も歩行が安定してきた冬過ぎ頃、高月齢児から刺激を受け、探索活動を積極的に行う姿が見られていました。まさに「見て学ぶ」が感じられる後期でした。

１月に入り友達の名前を呼び合う姿が盛んに見られるようになりました。低月齢児も名前が呼べなくてもその子をじっと見て喃語で話し掛け、「〇〇ちゃんと手を繋ぎたいの？」と保育者が尋ねると大きく頷く…約１年間一緒に過ごした仲間を認識し、友達と一緒にいることが楽しいと思えるようになっていることが感じられます。

人と関わりたい、関わる事が楽しいと思う気持ちはこれから先、成長していく上で大切になります。この１年で感じた、人と関わることの心地よさがこれからもっと大きくなるように保育者は安心できる存在でいたいと思います。

信頼できる大人に

見守られる中での生活



遊びで育まれる

感覚や情操

ワクワクが
いっぱい！

他者や身の回りのことへの

興味・関心の膨らみ

もも組（１歳児）

それぞれ自分の思いがあり個性豊かな１０名。前期は散歩に出掛ける時も「行きたい！」子ども達と遊びを切り上げられず「行きたくない！」子ども達がいたので中々散歩に出発できず、保育者もどう関わればよいか悩みました。そこで、２グループに分かれて散歩に出掛けるように計画すると、「行きたくない！」子ども達を少し待つことができ、気持ちを切り替えて散歩への準備に取り組むことができるようになってきました。また、10 名の散歩より５名の散歩は子ども達の遊びも保障され、保育者も一人一人にじっくり関わることができ、ゆったりした中でやりとりをすることが出来ました。後期には四肢の使い方を知って欲しい思いから固定遊具のある公園へも出掛け経験を重ねてきました。大人数だと落ち着かない様子だった子ども達も、少人数で過ごすことで冬頃には全員で散歩に出掛けるようになりました。

その頃には「散歩先まで歩いていく」を年間カリキュラムに掲げていましたが避難車があることで「乗れば歩かなくていい」ことが分かって駄々こねをしてその場から動かない姿も見られ、中々前に進めない日もありました。１つ解決したと思うと次の悩みが…しかし、前期を思い出し、初めはそれぞれの思いを尊重し、避難車に乗って出掛け、途中で「歩いてみよう」と誘い、順番に歩くことを繰り返しました。年明けには体力も付いてきたことで避難車とは「バイバイ」をして全員で歩いて散歩に出掛けるようにしました。行きは元気に歩いて出掛けていた子どもたちも帰りは遊び疲れて道に座り込んだり、保育者に抱っこを求めることもありましたが、「歩道橋に上って車を見に行こうか」「（スーパーの）お芋屋さん見に行こう」など見通しのもてる声掛けをすることで疲れていた子どもたちも頑張って最後まで歩こうとする姿にまで成長をしました。

今年度のもも組のテーマは『**やる気、勇気、元気！３つの気**』とし、１年間、様々な経験を通し、３つの気が育んでいけるように保育をしてきました。「これもやってみたい！」と興味や関心が増え、「自分でやりたい！」も増え、それでもできなくて怒ったり、保育者がどんな声掛けをしても気持ちが切り替わらない、関わりに悩むことも多い １ 歳児です。それでも安心できる保育者が見守る中で葛藤を繰り返し、できることも増え、やる気が大きくなりました。今年度は少人数での中で３つの気を経験してきた子ども達ですが、来年度は友達との関わりの中で３つの気を大きく育てていって欲しいと思います。

やる気

～自分のことは自分で！～

固定遊具に挑戦！

勇気

～あれ、これ、なんだろう？やってみよう！～

色々な生き物に興味津々

元気

～僕たち、私たち、元気な子！～

オオカミごっこ

かけっこ

電車ごっこ

階段の上り下り

泥んこ遊び

つくし組（２歳児）

今年度は《カラフル》をテーマに１年間を過ごしてきました。子ども一人一人の個性を大切にそれぞれの色を発揮しながら、友達との関わりが深まり色が混ざり合って 2024 年度のつくし組らしく成長していって欲しいと、日々の保育を計画しました。

入園、進級当初は新しい環境に緊張したり不安を感じている姿もありましたが、好きな遊びが見つかり、安心できる保育者と出会い、子ども達の表情も和らいでいきました。好きな遊びに向かう姿は真剣そのもので、その中で発見したことを保育者に伝えたり、完成した時には喜んだりと、一人一人が自分のもつ力を発揮する姿がたくさん見られました。秋以降はルールのある集団遊びも取り入れて、約束を守って遊ぶ今までとは違った楽しさを感じたり、競い合う中で悔しさと共に感じる面白さも経験し、集団遊びを楽しむ姿も見られました。発見することが得意な子、遊びを発展させることが得意な子、ルールを理解して遊ぶことが得意な子、運動が得意な子など一人一人の個性を発揮しながら、“友達と一緒が楽しい”と感じている姿がたくさん見られ心の成長を感じました。

その中で自分ができたこと、気付いたことを友達にも感じて欲しいという思いから「一緒にやってみよう」「きっとできるよ」と励ましたり教え合う姿がありました。生活の中でも食具の上手持ちが難しい友達に「こうだよ」と見本を見せてあげたり、帽子の着用が難しい友達に「やってあげるね」と自分が出来るようになったことに自信をもち、教えてあげたいという思いで関わる姿も見られました。

クラスの友達との仲が深まってからは、他クラスの友達と過ごす時間も多く計画してきました。年下の友達には優しい気持ちで自分が経験してきたようにお手伝いをしたり、年上の友達には色々なことを教えてもらったりして、子ども達の経験も豊かになりました。

友達との関わりの中での経験が子ども達の心と体の成長をぐっと後押ししてくれたと感じます。これからも自分の力を発揮しながら、友だちと協力したり、お互いに刺激をし合って成長していって欲しいです。

木の実探し

しっぽ取り

だるまさんが転んだ